

# PROGRAM NOTE

## アンデスを走る鉄道の旅

La Voz No. 183号 「1998年」

汽笛一声、アンデスの高山都市キトの始発駅をゆっくりと走り出した列車は、すでに乗客が屋根の上にびっしり。

私たちもやっとその切符を手に入れて、貨車の鉄梯子をよじのぼって仲間に入れてもらった。屋根といってもトタンが敷いてあるだけで、ゆるやかな傾斜になっているため、そこに座って足をのぼすとすべり落ちそうだ。がたとと揺れてもつかむところがない。

そのせいか、一時間遅れで発車したのに急ぐ様子もさらさなく、ごとなごとなとノロノロ運転だ。キト市南の広場で露天市がひらかれていた。列車がすすむ両脇には新鮮な野菜、果物などをひろげた屋台が並んでいる。やたらうるさく汽笛が鳴るので前

方をみると、バナナやパイナップルの束を山積みにした木造トラックが踏切で立ち往生している。牛たちも線路の上をのそのそ歩いてくる。踏切小屋も番人もいないので一時停車するしかない。目的地にはいつになったら着くのか心配になっていった。



それでも郊外を出ると、列車はスピードをあげはじめた。一面トーモロコシと大豆畑が広がるなかで働く農夫たちが手をやすめ、子供たちは笑顔で手をふり、子犬も列車にそって走りだす。カーブで列車がすこし傾くと屋根の上の乗客が奇声をあげる。草原を突切り、森林をぬけ、溪谷を曲がりくねると、アンデスの山々が見え隠れしながらついてくる。車窓から切り取られた風景ではなく、パノラマの絶景が動きながら うしろへ飛ぶ。肌にあたる風がひんやりとしたきたなと思うと、海拔3600米の高原の駅コトパキシーについた。山間にぽつりと建てられた駅舎は北欧的な三角屋根。高原の風で冷え切った体をあたためてくれるホット牛乳とトーモロコシが飛ぶよう



### 今月のペリカード

電波宣教師第一号として日本を出発する前に、東京お茶の水のキリスト教学生会館で、牧師、信徒、神学生など200余名が集まって壮行会がひらかれた。今も手元にあるその時のサイン帳には多くの励ましの言葉や聖句が残されているが、最後のページは、カラーで小田急電鉄の「夢のロマンスカー」のイラストになっている。

腕をふるったのは、当時、太平洋放送協会で私と机を並べていた同輩の藤村盛氏。放送スタジオが梅が丘、自宅は座間、私は大和に住んでいたため、通勤は小田急の電車でいつも一緒だった。「ピーポー」と独特の警笛で颯爽と通り抜けるロマンスカーは、ふたりにとっては夢の乗り物だった。この絵は「アンデスの声」を半世紀にわたってずっと支え続けてくれた陰の功労者が、祈りをこめて描き上げた作品であり、私にはかけがえのない宝となっている。



に売れる。ひとつしかないトイレの前では女性が長蛇の列。残念ながら、世界最高の活火山コトパキシーは厚い雲におおわれたまま姿をみせてくれない。下車した登山客たちには、ここから5897米の頂上をめざして登りはじめる。

発車ベルもアナウンスもないまま、列車が走り出した。あわてて列車を追いかけ鉄梯子をつかんでふたたび屋根によじのぼる。あぶなく置いてきぼりにされるところだった。線路は次第に下り坂になり、列車はスピードをあげて急カーブをきりながら突すすむ。そのたびに乗客は左右に大きく揺すられるので、お互い同士で体にしがみつく。そのうち、景色が荒涼とした草原地帯から家畜が群がる平和でのどかな牧草地帯に変わった。やわらいだ空気がこちよい。キトを発って4時間。屋根の上に鈴なりになっていた乗客の数も駅ごとに減り、ひたすら高原をかけぬけた列車は、つつがなくエクアドル最高峰チンラッソ（標高6100米）のふもとの町ラタクンへすべりこんだ。こうしてアンデスを走る鉄道の旅は終わった。

日本語放送担当

尾崎一夫



発駅キト（2852米）

ディーゼル機関車に貨車、ボックス改良車、木造客車を連結。発車直前には屋根の上まで満席。



列車にゆられて夢の旅  
寝転んで転げ落ちてでも保証なし。

大変込み合っているところ、まことに恐れ入りますが、屋根の上の乗客の間をかきわけながら検札する車掌さん。木の枝や長い電線などで帽子をとばされるので油断大敵。



高原の駅コトパキシー

（標高3583米）機関車アルファロ号は百年前に鉄道を完成させた大統領の名前。プラットフォームはないので乗客はそれぞれ車両から飛び降りる駅と駅の交信に駅員がトンツー・トンツーとキーをたたいていた。

終着駅ラタクンガ（標高2750米）

着いた着いたとみんな立ち上がって屋根から地上へ。なえた足腰をおもいきり伸ばしてそれぞれ散って行く。



#### 『サタデー・トーク』

きき手 尾崎一夫  
毎週土曜日放送

5月 5日	花栽培 神村昭夫さんを訪ねて（1）
5月12日	花栽培 神村昭夫さんを訪ねて（2）
5月19日	アンデスを走る鉄道の旅（1）
5月26日	アンデスを走る鉄道の旅（2）

#### 『バイブル・トーク』

東京淀橋教会 峯野龍弘主管牧師  
毎週日曜日放送

5月 6日	聖書遊覧バス：アブラハム物語（2）
5月10日	聖書遊覧バス：アブラハム物語（3）
5月20日	リスナーからのお便り紹介
5月27日	聖書遊覧バス：アブラハム物語（4）

放送後の番組は、ホームページ（<http://japanese.hcjb.org>）のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間午前7時半～8時

放送周波数： 15525kHz 19mb)

（米国アリゾナ制作／オーストラリア送信）

HCJB 日本語放送

新住所：HCJB（日本語放送）5701 N INDIAN TRAIL TUCSON AZ 85750 USA